

- 2) 琉球政府厚生局発行(1963年)、厚生白書
- 3) 琉球政府厚生局公衆衛生課、保健所10周年のあゆみ
- 4) 沖縄群島政府厚生部(1950年)、衛生統計
- 5) 西郷親盛、沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究、熊本医学令雑誌、第16巻第2号(昭和15年2月)
- 6) 八重山保健所篇、八重山群島のマラリア撲滅の成果
- 7) 其他琉球衛生研究所資料

沖縄本島から得た広東住血線虫 *Angiostrongylus* *cantonensis* について

国 吉 真 英 (琉球衛研)
西 村 謙 一 (九大寄生虫)

Angiostrongylus cantonensis は1935年、Chenにより始めて発見された野ねずみの寄生虫である。ところが1962年、Rosenらがハワイで好酸球性髄膜脳炎で死亡した一患者の脳から本線虫を発見して以来、本虫は太平洋地域に広く存在する好酸球性髄膜脳炎 eosinophilic meningoencephalitis の病源体と考えられ、医学上重要な寄生虫となった。本線虫は太平洋地域、オーストラリア、東南アジアに分布するが、その地理的分布は、現在の最も重要な研究課題の一つである。琉球列島からは、1964年、西村、川島、宮崎により、西表島のドブネズミから本線虫が発見され、新分布地として報告された。それに先立ち、第17回本学会に報告の際、宮崎は *Angiostrongylus cantonensis* に対して、広東住血線虫 (カントンジユウケツセンチュウ) の和名を提唱した。演者らは、1965年2月13日沖縄本島読谷村高志保の家屋内で捕かくしたクマネズミ♀、一頭の肺動脈から全長2.5mmの広東住血線虫の♀1匹を発見した。この発見は沖縄本島からの最初の発見であり、現在、分布の最北限である。

琉球列島における広東住血線虫 *Angiostrongylus* *cantonensis* の中間宿主について

西 村 謙 一 (九大寄生虫)
国 吉 真 英 (琉球衛研)
吉 田 朝 啓 (那覇保健所)

広東住血線虫 *Angiostrongylus cantonensis* の中間宿主に関しては1955年、Mackernas &